

調査部報告

本年度は調査部として主力を注いだのは、組合員調査であるが、本大會までに完成しなかつた事は誠に遺憾である。次に積極的組織の爲めに必要な未組織工場の調査であるが、之も打ち續く争議の爲め充分なる成績をあげ得なかつた。

組織に争議に正確なる対策をたてるには調査を基礎にさねばならない。従つて調査部の責任は重大である。然して之には多くの経費を要するので本組合の現状に於て特に本部間の爲め豫算を計上する事は困難であるので今後は労働経済社との協力をまつて漸次充實を計る考へである。

事業部報告

事業部は各支部の共済、購買、消費組合等の事業を指導統一に努力して來たのである。現在、共済制度を設けて居るもの十八ヶ支部、其内會費制度のもの十五、臨時徴集制のもの三、にして本部が直接事務を扱つて居るものは川口支部にして相當の成績を上げて居る。(會計報告欄参照)

購買部及消費組合

現在の如く不況の爲め積極的待遇改善の困難なる時に於ては、消費経済を積極的に合理化して生活費軽減を計るべ

きである。本年度に於いて購買部を設置せる支部は昨年度よりも七ヶ支部の増加を見て合計十ヶ支部となつた。消費組合を利用せる支部は甚だ僅少にして遺憾である。之を左に示せば

- イ、共愛消費組合 利用支部 四
- ロ、北豊島協同消費組合 同 一
- ハ、南葛消費組合 同 一
- ニ、豊多摩共働社 同 一

此の地方の支部及組合員は積極的に加入をする様切望する。現主任は前大崎第六支部幹部田端豊次君である。ハ、も同様。南葛地方の支部及組合員の積極的利用を望むものである。

教育部報告

労働争議を通じての實際的教育に努力する一方に計統的に組織立つた教育力も講演會、研究會に依つて爲したる主なるものは左の通りである。

主 催	講 師	回 數	生徒數	科 目
南 葛 支 部 聯 合 會	齋 藤 健 一	一〇	六五	労働組合論 労働組合の現勢 日本労働俱樂部の成立と將來の展望
大 崎 支 部 聯 合 會	石 川 準 十 郎 齋 藤 健 一 赤 松 常 子 重 廣 虎 雄 松 永 義 雄	五	八〇	レイニズムの批判 労働組合論 婦人と労働問題 日本労働運動史論 労働組合論